



認定 NPO 法人スペースふう



循環型社会を目指して！

# 活動報告書 2018



実はよく知らない!?

## スペースふうの活動を

### 環境社会学者

## 箕浦一哉先生に

## ひもついて

## いただきました!

スペースふうが 2002 年に NPO 法人格を取得し、2003 年にリユース食器レンタル事業を本格スタートしてから 16 年。名前は聞いたことはあるけれど、「リユース」「リサイクル」も一緒なのかな、今さら聞けないよねという人たちも多く、「永井さんの団体」という印象が強いのも現実。今回、設立時からずっとスペースふうを見守ってくださっている山梨県立大学箕浦一哉教授と理事長永井寛子が対談し、スペースふうの実態に迫りました。



環境社会学者  
箕浦 一哉  
Kazuya Minoura

山梨県立大学国際政策学部教授。専門は環境社会学。環境保全に関する市民活動・ガバナンス、地方移住と地域コミュニティ、音風景・景観をめぐる地域文化・社会政策などの研究に従事。著書に『コモンスをささえるしくみ』（共著）、『生活環境主義のコミュニティ分析』（共著）ほか。

## 使い捨て社会を変えていきたい リユース食器事業の枠を はみ出ているスペースふう

**箕浦** スペースふうは「リユース食器レンタル事業」が表のわかりやすい顔ですが、そこからはみ出て、さまざまなことに取り組んでいらっしゃるところが面白いと思っています。全国ネットワーク「ふうネット」を展開したり、山梨県エコイベントガイドラインを提案したり、富士川町との協働事業・制度づくりがあったり、最近ではマイクロプラスチック削減のためのネットワークづくりにも取り組んでいらっしゃいます。そうした取り組みを拝見していると、ただ自分たちのリユース食器レンタル事業を成功させたいという以上のモチベーションがあると感じます。そもそもスペースふうがリユース食器のレンタル事業をやっているのはなぜですか？

**永井** 社会を変えたいという思いですかね。

**箕浦** どういうところを変えたいって思っているんでしょうか？

**永井** 一言で言ってしまうと、ごみを出さない「脱 使い捨て社会」に変えたいということです。そもそもリユース食器のレンタル事業を始めようとしたきっかけは、イベントに行ってごみの山を見た時に、こういうごみ文化を子や孫の世代に伝えていいのかっていう疑問を持った、そこから始まったんです。それから 16 ～ 7 年経ちましたけれども、今や状況は地球規模の環境問題へと悪化しています。プラスチックごみによる海洋汚染が深刻化してくるなかで、使い捨て食器（そのほとんどはプラスチック製）をなくそうとするスペースふうの活動は新たなステージに入ったと思っています。今、世界は脱使い捨てプラスチックの方向へと急速に動いていますよね。最近、G20 が大阪で開催されたこともあり、日本も少しずつ動き出そうとしているけれども、国が動かないんだったら市民が動いたらいい、「誰もやらないなら自分たちがやればいい」。私は直接プラスチックごみに日々向き合っている身として、行政が動くのを待つんじゃないかなって思っている。だから、枠からはみ出ているんなことをしようとしているってなる。まさに他団体との協働につながってくるわけです。(p5～6 参照)

## リユース食器が広がらず、経営課題に直結 だからこそ新しいしくみが必要

**箕浦** リユース食器のレンタルが頭打ちだと伺ったんですけど、リユース食器の広がりについてどんな風に感じいらっしゃいますか？

**永井** あの・・・広がっていないんです。実をいうと、スペースふうは今のまま事業を持続していくことは難しいと言われていたんです。「どんなに理想が高くても志だけじゃやっていけないよ」と。どうやってビジネスとして自立できるか、持続可能な事業に育てていけるか、今スペースふうが問われているところです。「永井さんたちは環境意識の高い人たちですよ。リユース食器を使ってもらいたくて一生懸命案を出すけれど、ほとんどの人たちはそんな意識のない人たちなんだよ。だから、そういう人の立場になって考えなきゃいけないんじゃないか」という助言もあります。私たちが目指すのは、意識の高い、低い関係なく、ごみのないイベントが当たり前で思える社会にしたい。意識しなくても、いつの間にかみんながそういう方向に向いている、みたいな、そんな社会のしくみをつくっていただけたらいいと思う。もっと、もっと大勢の人たちがリユース食器を使ってくれるようになれば、スペースふうは持続できるようになるはず。そのしくみづくりを今スペースふうは必死で考えているところです。

**箕浦** そのしくみというのは、スペースふうが事業を継続していくための経営のしくみのことですか？それとも人々がリユース食器を使いやすくなるための社会的なしくみのことですか？

**永井** その両方ですね。そのしくみができれば、スペースふうだけでなく、全国の多くのリユース食器事業を運営している仲間のためにもなると思います。レンタル事業をやっている事業所みんながうまくいくこと、全体の底上げが必要だと思っていて、そのためにはどういうしくみを作っていけばいいのか、ってことがいつも私の頭の中をぐるぐる回っています。

## 理事長永井寛子の本音とは？ 世代交代の今

**永井** ただ、私はもう 70 歳を超えています。「私がスペースふうで活動するのもあと 2、3 年だよ」、と周囲には以前から言っています。でもね、こんな状況で次の世代につなげようなんて、そんな無責任なことではできませんよね。将来に向けての見通しがつくの見届けないとやめられないなって。私を含めて設立時からいる 3 人の古参仲間は年齢的なことも考慮して、「引退」も考えていたけれど、今ここで引退っていう



わけにはいかない状況になり、これからも若手スタッフと一緒に第一線で活動します、と先日みんなの前で宣言してしまいました。いつも試行錯誤していて、日々、こうやってしょっちゅうもめながら軌道修正してやっているのよね、私たち（笑）。

## ユーザーの意識は変化したのだろうか？

**箕浦** 少し角度を変えた質問をしますが、10 年以上リユース食器レンタル業をしてきた中で、ユーザーの意識の変化ってどう思いますか？

**永井** 実際リユース食器を使っているかどうかはまた別問題なんですけど、海ゴミの問題ではみなさんすごく意識が敏感になってきていて、つまり、使い捨てプラスチックのごみに敏感になっていて、ただ、それが即リユース食器を使いましょう、というところにはたどり着かない。まだしくみがちゃんとできていないからネックになっているって思うんですよ。使いたいんだけど使えないんだよねって。

**箕浦** 使いたい人はいっぱいいる？

**永井** いっぱいいます。だから「使うよ」って言いながら結局だめだったって人もいますよね、それはいろいろ運営面でもあるのかもしれないし、お金の問題もあるのかもしれないけれど。あと、イベントって個人じゃなくて組織でやるでしょ、だから誰かが使いたいって思ったとしても組織を説得しきれないっていう、そういうのはあるんですよ。だからこそここで、誰もか納得できる新しいしくみをつくりたい。今取り組んでいる最中です。

## 社会を変えていくために どんな支援・協力が必要？

**箕浦** 狭く言えばリユース食器の事業を継続していくため、広く言えば社会を変えていくためにどんな支援や協力が必要でしょうか？

**永井** 1 つ目は、ぜひ使い捨て容器ではなくリユース食器を使ってほしい、そしてまだ気づいていない人に広めてほしいです。2 つ目は、この社会を変えたい = 私たちの活動を応援したいという気持ちのある方には寄附という形で応援していただけたら嬉しい。応援してくれている人の存在が私たちの力になるから。(p7 参照) あと（笑）、活動している私たち自身が気づいていないことが実はいっぱいあって、自分たちの力が弱いってことは十分承知しているので、ぜひいろいろな助言をください。お願いします！

Kazuya Minoura  
×  
Hiroko Nagai

箕浦先生より

対談を終えて

## スペースふうの 3 つの顔

スペースふうは「リユース食器のレンタル事業者」という「インフラ」の顔が目立ちますが、同時に「運動」と「ガバナンス」の顔をもっているところにユニークさがあると思います。

### 1 環境運動家

「運動」とは新しい価値を提示し社会を変革しようとするものです。スペースふうは使い捨て食器をなくすという社会像を示し広めていこうとしている点で、「運動家」の側面をもっています。

### 2 インフラ事業者

つまり、電力や鉄道のような社会基盤を提供しているといえます。私たちは他に選択肢がなければ使い捨て食器を使うしかありません。リユース食器レンタル事業は、人びとの環境配慮行動を可能にするインフラなのです。

### 3 環境ガバナンスの仕掛け人

「ガバナンス」とは、政府などが上から統治するのではなく、多様な主体が参画して社会を運営することです。スペースふうは、「エコイベント」の認証制度を行政に提案したり、富士川町と協働して条例をつくったり、行政や市民団体・企業を巻き込んで社会的なしくみをつくろうとしている点で、「環境ガバナンス」を仕掛けているといえます。

「スペースふう」は、  
リユース食器を通して  
循環型社会の実現を  
目指します



## リユース食器レンタルの利用普及事業

全国のイベント **502** 件にリユース食器を提供。  
約 **618,000** 個のリユース食器が使われ  
使い捨て容器ごみ削減に貢献しました。

### 12 イベント会場でリユース食器の運営を担当



イベントの条件に応じて、エコステーションの設置、回収方法（デポジットの有無）等、会場にてリユース食器運営がしやすいよう主催者とともに取り組んできました。

大法師さくら祭り / 首都圏富士川会総会・懇親会 / 春の蔵出しワインバー / 地ビールフェスト甲府 / 峡南の夏まつり / ふるさと特産品フェア / ポール・ラッシュ祭〜ハケ岳カンティフェア〜 / ワインフェスタ (VF 甲府) / みのぶまつり / 県民の日記念行事 (小瀬会場) / GreenVeggieKOFU / 北杜シェフズパル 2019 (略称、順不同)

### サッカースタジアム × リユース食器 ヴァンフォーレ甲府エコスタジアムプロジェクト

2018シーズン(3~11月)は、山梨中銀スタジアムでのホームゲームが26試合行われ、リユース食器が約57,000個利用されました。リユース食器の回収やごみの分別等を行うエコステーションには、スペースふうスタッフを含め年間のべ405人が運営を行いました。



※高校生はのべ117人  
大学生はのべ22人

### リユース食器普及活動 山梨県内、そして全国へ



山梨県内全市町村の首長に直接面会し、リユース食器への理解を求めました。その記録を冊子にまとめ、多くの人にアピールする機会としました。プラスチックごみによる海ごみ問題がクローズアップされるなか、「使い捨てからリユースへ」の働きかけを強化し、講演活動・発表等を23回実施、前年度と比較して約3倍増、講演範囲は島根県、京都府亀岡市、東京等、広く講演する機会をいただきました。

#### 利用者の声



「生長の家自然の恵みフェスタ」  
運営担当：松尾 様

環境にやさしいリユース食器は、フェスタのコンセプトにぴったりで、屋台や自転車イベントのエイドステーションなどで、5年前より毎年、使用させていただいております。スペースふうさんの活動に賛同し、その広がりを願っております。

#### 事業部から

##### ①受注部門

多様な受注が多くなってきている状況下で、スタッフの協力体制によりやりきることができました。今後も更なるスキルアップをしながら対応していきます。

##### ②洗浄検品などの現場部門

繁忙期には、臨時スタッフを募集し、仕事を回してきました。スタッフ間の意思疎通を図りながらローテーションを組み、今後も品質管理向上を最大限に掲げ作業を進めていきます。

##### ③イベント対応部門

イベント対応の一番の問題は、スタッフの確保です。課題は山積していますが、ミーティングを重ねながら、イベント会場で主催者の皆様とともに対応しています。



もっと、ごみの出ないイベントが増えてほしいので、たくさんのイベントでリユース食器を使ってほしいです。(前川)

スタッフ  
から一言

## リユース食器事業者をつなぐ全国ネットワーク ふうネット事業



### 会員団体へのサポート

全国各地のリユース食器レンタル事業の立ち上げを支援し、リユース食器の普及を目指すため、2006年「リユース食器ふうネット」を設立しました。新規開設する事業所には、視察訪問をし、アドバイス等を行っています。また、ふうネット会員との意見交換及び作業工程の確認等適宜行っています。

全国の仲間  
15団体



▲エコネットはむら(東京)



▲NPO 法人 社会資源再生協議会(埼玉)

### ふうネットサミット開催



2018年度も恒例のふうネットサミットが東京新宿で開催されました。大阪商業大学の原田禎夫先生をお招きしての講演、また、NPO法人エコトーンの太田航平さんをファシリテーターに、ワークショップを行うなど参加者と共に海ごみ問題について学びを深める機会をもちました。海ごみ問題が深刻化するなか、使い捨てプラスチックに替わるリユース食器の利用が改めて注目されている昨今です。スペースふうでは、リユース食器ふうネットの新たな会員を募集しています。皆さんの地域にリユース食器レンタル事業を興しませんか。ごみのないイベント風景を日本全国に広めていきましょう。



▲集合写真



▶ワークショップ

## 行政・地域との協働による ごみのないまちづくり事業

町のレンタル  
個数  
7万9千個

協働している  
町内の事業所  
90社



### 6年目を迎えた富士川町ごみゼロプロジェクト事業

富士川町とスペースふう、それに町内協賛企業とが連携してリユース食器の普及に取り組んでいるプロジェクトが「富士川町0円プロジェクト」です。町民ならだれもが無料でリユース食器を借りられるしくみで、プラスチックごみによる海洋汚染が大きな環境問題になっている昨今、この取り組みは改めて注目されています。リユース食器が当たり前になりつつある富士川町のイベント風景をどうやって全国規模に発展させられるか、目下、最大の懸案事項として議論しているところです。

#### ～平成30年度協賛事業所～

(有)アイ・タイム中沢 / 青柳・飯沢・豊栄(各)タクシー / 秋山真輝道教室 秋山真澄 / (有)秋山板金工業所 / (有)秋山板金自動車整備工場 / (株)アシストエンジニアリング / いち柳ホテル / (有)Inondo / (有)井上板金工業所 / (有)入倉鉄工所 / 内田青果店 / (有)大木スタジオ / (有)おかめ館 / (株)小澤工務店 / (株)小原屋原田商店 / 飯沢貨物自動車 / (有)飯沢志村新聞店 / (公社)飯沢法人会 / かわせみ工房 / カワチ看板店 / ギフトプラザML / (株)協栄住建 / 経王寺 / (有)峡南環境サービス / (株)峡南自動車教習所 / 峡南スズキ販売 / 旅館食堂 国本屋 / グローバルハウス / (株) / (有)郡司 / (株)ケー・データエンジニア / (株)高尾 / (株)三和商会 / 志村衛生堂薬局 / 喜福寺 / (株)松月堂 / 私立保育園たんぽぽ子どもの家 / (有)信米 / (株)スギタ建工 / 正視堂眼鏡店 / 精良軒 / センゲティ / (有)総合葬祭 河野 / 善住寺 / 高橋商店 / (有)グラスキン富士宮 / 山梨店 / 田中塗装 / (株)TAMAYA ロジスティクス / (有)竹林堂 / 中華飯店 三陽 / 中部ライフエナジー / (株) / (株)テクノカルスチール / (有)中屋 / なとり動物病院 / (有)南嶺興業 / 日本連合警備 / (株) / (有)野中林業所 / (株)はくばく / (株)はやぶさ地所 / 日出づる里活性化組合 / ビルテック / (株) / (有)深沢電器商会 / (社)福戸川会 福寿荘きらさら / (株)富士川クリーン / 富士川シーエーティーヴィ / (株) / 富士川町建設安全協議会(会員13名) / ふじかわ農業協同組合 / 藤間新流 藤間繁素 / フレッシュエッグ英智園 / (有)文殊堂 / 穂積を育てる会 / (株)まほろ / (有)ミート・高橋 / (株)水口屋佛具店 / みづくちや興販店 / 三越松花園 / 御堂山 妙性寺 / (有)みんなの家どんぐり / やさしい手甲府 飯沢事業所 / (有)矢崎自工・安田レンタカー / 山梨ガーデン / (株) / 山梨県民信用組合 飯沢支店 / 山梨信用金庫 増穂支店 / (株)山梨中央銀行 青柳支店 / 山本重公認会計士事務所 / ゆずり 橋本屋 / (株)萬原醸造店 / レモン薬局 / 蓮華寺



# 他団体とのパートナーシップで 環境課題に挑む事業



## 山梨マイクロプラスチック 削減プロジェクト

2018年7月16日、県内の環境団体を中心に「山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト」(通称 Yama・P) が設立されました。プラスチックごみによる海洋汚染の深刻化がクローズアップされるなか、海ごみの多くは川から運ばれてきたもの、という事実を知り、海のない山梨に住む者として、他人事ではいけないという考えから Yama・P は生まれました。昨年は、設立総会に始まり研修会、出前講座、行政との連携事業など、短期間ながらもさまざまな企画を立ち上げ、海ごみ問題について多くの方に広く知る機会をもっていただきました。

永井理事長は、設立総会にてこの団体の代表に就任しました。  
<https://www.facebook.com/YamaP.2018/>



## 広がれ！小瀬エコスタジアム プロジェクト実行委員会

県内の環境団体による環境啓発活動を、2018年度もヴァンフォーレ甲府のホームスタジアム内にあるエコブースを拠点として行いました。参加12団体がそれぞれの活動を通して環境啓発活動をしています。環境問題をスポーツの世界にも広げていき、環境山梨のシンボルとしての小瀬スタジアムを全国に発信していくことを目指しています。また、山梨県総合球技場が新しく建設されるという計画が浮上するなか、新スタジアムが山梨の環境のシンボルとしての拠点として、あるいは災害時の避難所等、多方面な利用も期待されることから、環境への配慮を市民からの「提言」として知事に提出しました。

実行委員長を永井理事長、事務局を河澄理事が担っています。



## ● 組織体制の再構築 / Panasonic NPO サポートプロボノプログラムを受けて

パナソニック株式会社の「Panasonic NPO サポートファンド(組織診断・組織基盤強化事業)」を過去3年間助成を受けた実績のもと、2018年度では「Panasonic NPO サポートプロボノプログラム」を受けることになりました。パナソニック社員の皆さまの参加により、プロボノ支援を受けるものです。

認定 NPO 法人サービスグラントのサポートにより、東京、大阪、そして山梨にいるパナソニック社員6名がプロボノとして参加し、スペースふうメンバーと取り組みました。オンライン会議を重ねながらスペースふうの課題を可視化、交通整理し、受注分析や内外ヒアリングをもとにした収益拡大案、体制の課題や解決案等共有しました。こうした動きにより、次のフェーズへの建設的な議論・判断根拠となる材料が得られ、それに基づく事業展開に続くこととなりました。



▲イベント会場で、プロボノメンバーはスペースふうスタッフとともにリユース食器回収作業を実施



▲3月の報告会にて



プロボノプログラムリーダー  
藤村英樹さんより

プロボノ活動を通じてイベントゴミの問題に関心をもつようになりました。今後、私たち自身でもできることを探し、実践していきます。これからも一緒にがんばっていきましょう！

メッセージ

Panasonic の HP にも紹介いただいています！

<https://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/citizenship/pnsf/probono/spacefu.html>

皆さまとともに想いを事業という形に変え、循環型社会の実現を目指します

皆さまからいただいた会費、ご寄付はリユース食器の普及に伴う事業、社会の課題解決に向けた事業の力とさせていただきます。未来につなげる社会を目指して活動するスペースふうにご支援をお願いします。

支援者の声



株式会社エコナノクラブ  
代表取締役 淵上美紀子 様

「スペースふう」さんとの出会いは、「相模湖」の水質を守るエコ洗剤を研究・開発した10数年前になります。設立メンバーの「ゴミをへらしたい」という想いに共感し、リユース食器の普及に、環境負荷の少ない食器洗いの洗剤を通してご協力をさせて頂いています。全国の「ふうネット」のメンバーにもご愛用頂き、間接的ですが「エコイベント」に参加・協力できることを大変嬉しく思っています。今後「マイクロプラスチック」問題の対策としても益々「リユース食器」の導入が進むよう、SDGs のパートナーとして共に邁進していきたいと思っております。



支援者の声



倉品保子 様

スペースふうのリユース食器の活動を知ってから、暮らしの中の使い捨て容器について、より気にかけるようになりました。また、日常の中でできることとしてマイバッグを持って買い物に行きますし、水筒を持って出かけるようにしてゴミが出ないよう心がけています。もっとリユース食器が広がるといいですね。

循環型社会を実現するために、皆様のご支援・ご協力をお願いします

会員募集

正会員 〈年会費〉団体・法人 10,000 円 / 1 □  
個人 5,000 円 / 1 □

当法人の活動に賛同し継続して支援して下さる方  
総会での議決権はあります

賛助会員 〈年会費〉団体・法人 10,000 円 / 1 □  
個人 3,000 円 / 1 □

当法人の活動に賛同し継続して支援して下さる方  
総会での議決権はありません

寄付募集

当法人を財政面から随時支援して下さる方 3,000 円 / 1 □ ~



※正会員は税の優遇措置がありません。賛助会員・寄付は税の優遇措置があります。確定申告の時期に証明書を送付いたします。

## 活動計算書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

(単位:円)

| 科目               | 金額                |
|------------------|-------------------|
| I 経常収益           |                   |
| 1 受取会費           | 320,000           |
| 2 受取寄附金          | 743,000           |
| 3 事業収益           | 20,832,259        |
| 4 その他収益          | 322,887           |
| <b>経常収益計</b>     | <b>22,218,146</b> |
| II 経常費用          |                   |
| 1 事業費            |                   |
| (1)人件費           | 10,438,129        |
| (2)その他経費         | 11,021,403        |
| 事業費計             | 21,459,532        |
| 2 管理費            |                   |
| (1)人件費           | 785,666           |
| (2)その他経費         | 496,625           |
| 管理費計             | 1,282,291         |
| <b>経常費用計</b>     | <b>22,741,823</b> |
| 当期経常増減額          | △ 523,677         |
| III 経常外収益        | 0                 |
| IV 経常外費用         | 0                 |
| 税引前当期正味財産増減額     | △ 523,677         |
| 法人税、住民税及び事業税     | 71,207            |
| <b>当期正味財産増減額</b> | <b>△ 594,884</b>  |
| 前期繰越正味財産額        | 4,905,744         |
| 次期繰越正味財産額        | 4,310,860         |

## 貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

(単位:円)

| 科目                | 金額                |
|-------------------|-------------------|
| I 資産の部            |                   |
| 1 流動資産            |                   |
| 現金預金              | 3,144,452         |
| 売掛金               | 361,617           |
| 未収入金              | 0                 |
| 貯蔵品               | 957,397           |
| 前払金               | 140,000           |
| 流動資産合計            | 4,603,466         |
| 2 固定資産            |                   |
| 有形固定資産            | 6,314,764         |
| 投資その他の資産          | 100,000           |
| 固定資産合計            | 6,414,764         |
| <b>資産合計</b>       | <b>11,018,230</b> |
| II 負債の部           |                   |
| 1 流動負債            |                   |
| 未払金               | 904,982           |
| 未払法人税等            | 71,000            |
| 未払消費税等            | 357,900           |
| 前受金               | 574,072           |
| 預り金               | 218,416           |
| 流動負債合計            | 2,126,370         |
| 2 固定負債            |                   |
| 長期借入金             | 4,581,000         |
| 固定負債合計            | 4,581,000         |
| <b>負債合計</b>       | <b>6,707,370</b>  |
| III 正味財産の部        |                   |
| 前期繰越正味財産          | 4,905,744         |
| 当期正味財産増減額         | △ 594,884         |
| <b>正味財産合計</b>     | <b>4,310,860</b>  |
| <b>負債及び正味財産合計</b> | <b>11,018,230</b> |

2018年度の財務諸表は、山本薫公認会計士事務所の助言のもとNPO法人会計基準に準拠して作成しております。

2018年度は、当期経常増減額が52万円の赤字となりました。原因は、取り扱い食器レンタル数量及び食器販売数量がいずれも減少したことによるものです。一方で、山梨県内27自治体首長との意見交換を実施したり山梨県内外の普及活動に努めました。次年度はこうした普及活動を活かし、業績回復を目指します。

スペースふうは、これからもさまざまなことに挑戦します!!

ごみゼロに挑戦し続けるスペースふうへのご支援をお願いします。